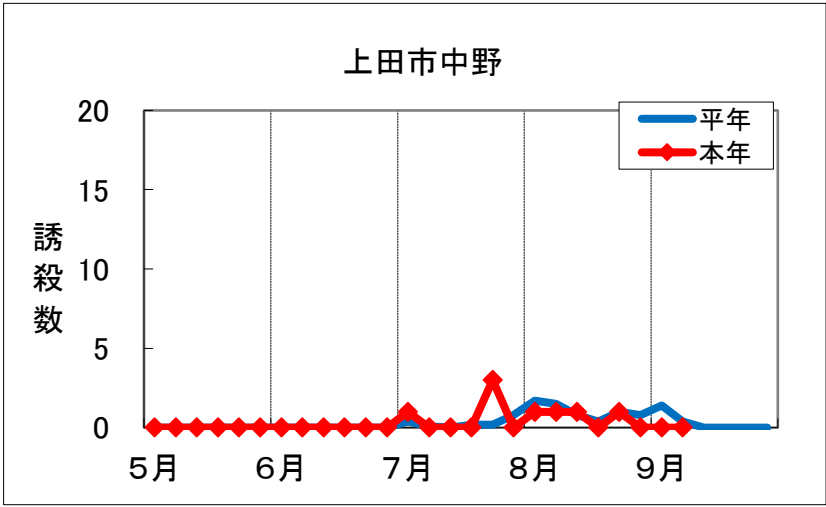


予察灯によるフタオビコヤガ(イネアオムシ)の誘殺消長

【令和8年・(2026年)】



※平年:平成28年～令和7年(10年間)の平均

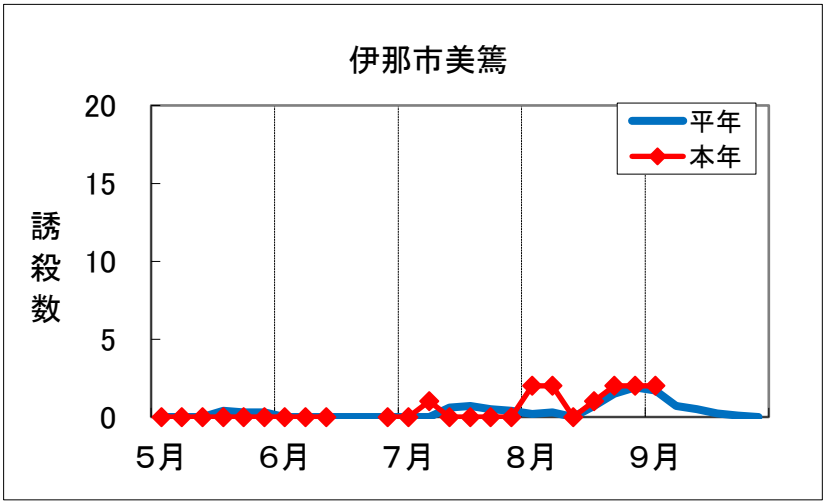
・上田市では、7月第1半旬に1頭が初誘殺されました。その後7月第5半旬は平年と比べ多く誘殺されましたが、7月第6半旬～9月第2半旬は平年並で推移しました。

・伊那市では、7月第2半旬に1頭が初誘殺された。その後、7月第6半旬までは誘殺されませんでしたが、8月第1半旬から第2半旬にかけては平年と比べ多く誘殺され、8月第3半旬以降は平年並で推移しました(6月第4半旬～第5半旬及び9月第2半旬は予察灯の電球切れのため欠調)。

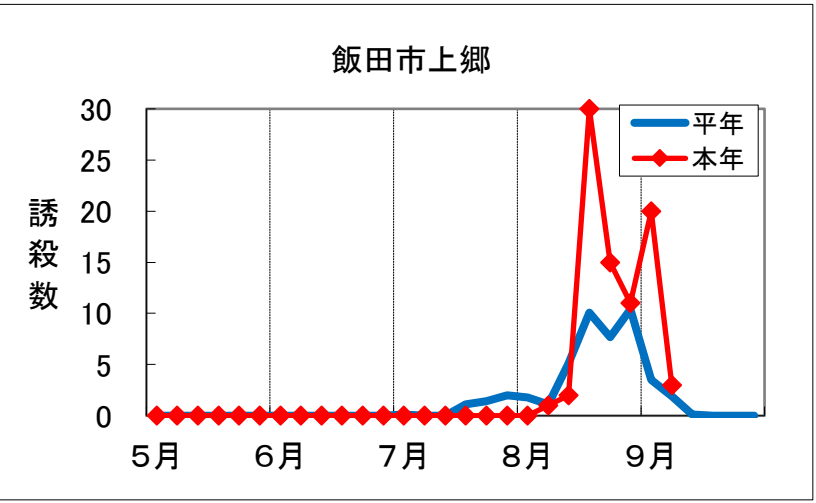
・飯田市では、8月第2半旬に1頭が初誘殺されました。その後、8月第3半旬以降は平年と比べ少ない誘殺でしたが、8月第4半旬～9月第1半旬にかけては平年と比べ多く、9月第2半旬は平年並で推移しました。

・須坂市では、6月第6半旬に1頭が初誘殺されましたが、その後9月第2半旬まで誘殺はありません。

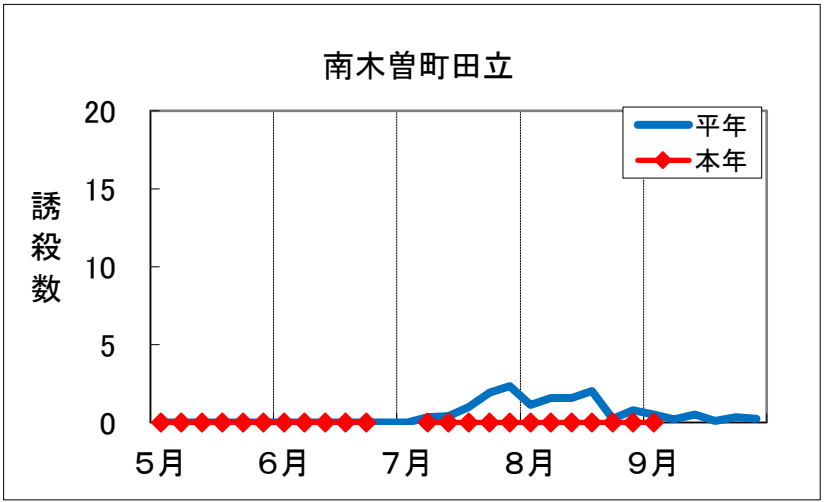
・その他の地点では、9月第2半旬まで誘殺はありません。(安曇野市穂高では6月第2半旬及び7月第4半旬～第6半旬、南木曾町田立では6月第6半旬～7月第1半旬及び9月第2半旬～第3半旬は予察灯の電球切れのため欠調)



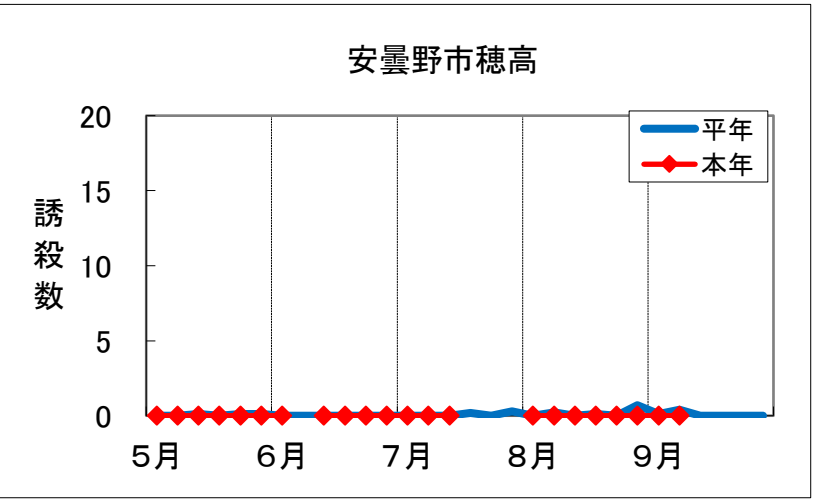
※平年:平成28年～令和7年(10年間)の平均



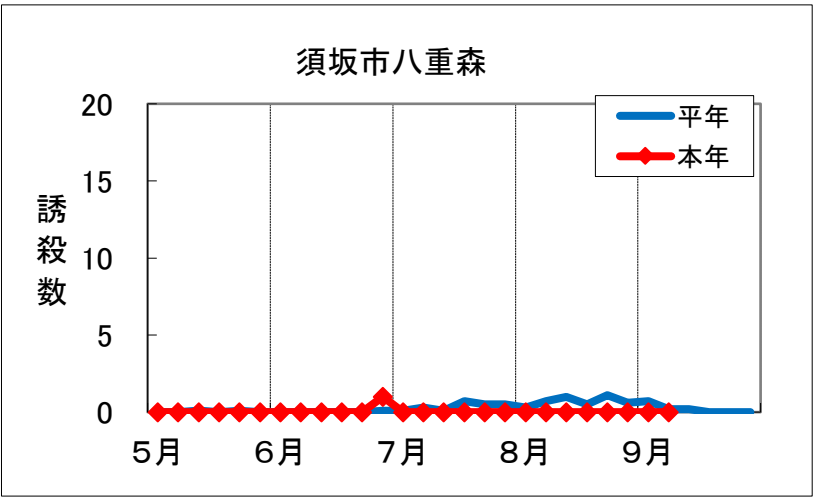
※平年:平成28年～令和7年(10年間)の平均



※平年:平成28年～令和7年(10年間)の平均



※平年:平成28年～令和7年(10年間)の平均



※平年:平成28年～令和7年(10年間)の平均

(参考)

1 発生生態

本県におけるフタオビコヤガ(イネアオムシ)の発生は、年3回が一般的です。標高の高い地域や、低温の年に発生が多くなります。蛹で越冬し、5月下旬に第1回成虫(越冬世代)が発生します。第1世代幼虫は6月中下旬に発生し、イネの葉を葉縁から台形に食害します。

上のグラフは予察灯で捕獲された成虫数です。

2 防除時期

平年の第1世代幼虫の防除は6月中下旬頃、第2世代幼虫の防除は7月中旬頃、第3世代(越冬世代)幼虫の防除は8月上旬頃です。